

第5回 郡上市男女共同参画推進審議会 要録

日 時 令和2年2月28日（金）午後1時30分から午後15時00分

場 所 郡上市総合文化センター4階第1大会議室

出席者 和佐田裕昭委員、奥村文乃委員、石山加代子委員、美谷添晃委員、山下優子委員、池場利廣委員、日置次郎委員、尾藤望委員

職務による出席 日置市長公室長、河合企画課長、高田課長補佐、松井主事

会議内容

1. 開会（河合課長）

2. あいさつ

山下会長： 今回の審議会で区切りとなり、委員の承認を得られれば答申へと運べる。最後となるので、様々なご意見を出していただきたい。

市長公室長： これまで様々な審議を頂き、感謝申し上げます。今回は答申前のまとめとなるため、よろしく願います。

3. 議事

（1）第4回審議会の振り返り

高田課長補佐： 資料①『第3回男女共同参画審議会の振り返り』を説明

委 員： 裏の図の実線は今既にあるつながりで、破線はこれから構築していきたいつながりということか。

事務局： 実線は被害者が相談する際の繋がりを表している。破線は被害者が相談した先のつながりを表している。

（2）第3次郡上市男女共同参画プランについて

高田課長補佐： 資料②『プラン策定に関する審議会検討内容』

『第3次郡上市男女共同参画プラン（案）』を説明

委 員： P.10の体系図の基本目標と基本方針にページ数を記載してはどうか。

事務局： ご指摘の通り、ページ数を記載し、体系図から内容に飛べるように修正する。

委 員： P.8の目標数値について、「何らかのDVについての被害の経験がある女性の割合」を下げていくということだが、生まれてからこれまでの期間で被害の経験があるか

を聞くと十年前に受けたことがあっても「被害の経験がある」という回答になり、現在受けていても「被害の経験がある」という回答になるため、割合が下がることは無いのではないか。そのような曖昧な割合を目標数値として良いのか。

委員：このアンケートはどのような形の回答になっているのか。

事務局：身体的な被害、精神的な被害、性的な被害についての質問項目があり、それぞれ「何度もあった」「1, 2度あった」「まったくない」の中から一つを選択していただく形になっている。

事務局：このアンケートは2,000人の市民を対象として行っており、母数に対してどれだけの人がどのような回答をしているかという検証を行っている。人数で管理しているのではなく、割合で管理をしている。

委員：年度内に受けた被害について聞いているのか。

事務局：これまでにあったかという聞き方をしている。

委員：過去何年という聞き方はできないか。

事務局：アンケートを作成する際に、過去何年でという聞き方をするのは可能である。

委員：経験は消えないため、これまでにという聞き方をすると今は解決していたとしてもカウントされてしまう。年度を区切って聞いた方が良い。

事務局：次回アンケートを作成する際は、どのように期間を区切るのをお等研究して実施する。

委員：アンケートに当たるのは無作為か。

事務局：そうである。

委員：過去には被害の経験があったが今は相談等をして解決したというような回答項目も入れてはどうか。

事務局：次回のアンケートに反映できるように、検討していく。

委員：設定した目標数値の理由は、次回のアンケートやプランの作成時に振り返ったときに、どのような経緯で設定したか分かるようにしておいた方が良い。また、どこに焦点を当てて設定するのかを重要視すると良い。例えば、「郡上市男女共同参画推進条例について内容を知っている市民の割合」は、条例があるということを確認したいのか、そもそも男女共同参画について知っているかを確認したいのか、そういった何を求めるかを明確にした方が良い。

事務局：郡上市男女共同参画推進条例に関する質問の回答は、「内容を知っている」「内容は知らないが、聞いたことがある」「知らない」であり、指標として設定したのは、「内容を知っている」と回答した人の割合である。

委員：「内容を知っている」の内容とは何か、答える人によって様々な捉え方がある。市が大切にしたい部分をピックアップし、条例のこの内容を知っているかという聞き方をした方が良い。また、条例は郡上市の男女共同参画の取り組みのもとになる部分のため、ともいきフェアを知っているか等の、条例に基づく取り組みについての質問にしても良いのではないか。

(3) 答申(案)について

高田課長補佐：資料③『第3次郡上市男女共同参画プランについて(答申)案』を説明

委員：審議会が第3次郡上市男女共同参画プランを取りまとめたという表現になっているが、これで良いのか。

事務局：市が提示した案に対して審議をいただいたという表現にするか、一緒に作ったという表現にするか迷ったが、今回は意見をいただき、修正し、提出することを繰り返して作成したものであるため、審議会が取りまとめたという表現とした。

委員：基本目標Ⅲについて、「①被害者にも加害者にもならないための意識・環境づくり、②相談体制の強化及び通報の重要性の促進、③被害者の自立支援・・・という3段階を、関係機関が連携して取り組まれない。」となっているが、3段階という言葉と、「自立支援」の後の点を別の表現にできないか。

委員：①、②、③の順番で施策を展開していくという捉え方で良いか。

事務局：意識・環境づくりによって被害者と加害者を出さないという大元ができ、それでも被害者になってしまった場合、それ以上悪化させないために体制を強化し、さらに被害者が自立していけるように支援するという流れを想定して「3段階」と表現したが、誤解を招く可能性がある。別の良い表現があればご提案いただきたい。

委員：「3つの項目を連携させて慎重に取り組む」という表現にしてはどうか。

委員：また、①②③の後にそれぞれかぎカッコをつけてはどうか。

事務局：意見を反映して修正する。

会長：意見が無ければこれで終了となるが、何かあるか。

委員：地域を大切にし、プランが作成されたのはとても重要なことである。家庭や地域の中での教えは人生に影響し、ずっと変わらない。地域に着目したプランができ、良かったと思う。

(3) その他

事務局：3月4日水曜日15時から山下会長と池場副会長にご出席いただき、市長に答申する予定である。その後、3月18日までパブリックコメントを実施する。来年度、プランに基づいて施策を実施していくため、実施計画を作成し、来年度の審議会に提出する予定である。

4. 閉会

池場副会長：これをもって3月4日に市長に答申する。これまで審議を重ねていただき、感謝申し上げます。

終了 15時00分